第二十三講　日本語論・翻訳語論

私たちの今日の日本語には、大きく分けると、三つの異質な源をもったことばが存在している。それらは混在しているのだが、それぞれの体系を意外にはっきりと守っているので、三つのことばの層がある、とでも言うのが適当だろう。第一は、伝統的な大和ことばの層。第二は、中国渡来のことばの層。そしてもう一つは、ヨーロッパ語からの翻訳語、外来語の層である。たとえば、似たような意味のことばをとり出して言うと、「よのなか」ということばは第一の層に属し、「世間」は第二の層、「社会」は第三の層に属している。

三つの層は、はっきりした区別をもちながら日本語の中にまじり合っているが、特にこの第三の層は、ふつう考えられている以上に、際立って異質な日本語なのだ、と私は思う。A<u>私のよくやる方法なのだが、家庭内でお年寄りが抵抗なしに受けとめられることばかどうか、と考えてみる。</u>「よのなか」や「世間」はよいが、「社会」は、まったく抵抗なしに受けとめられる、とは言えないだろう。

およそ、ことばの意味は、孤立した一つのことばとして考えるのではなく、そのことばが使われる文脈の中で生きている意味がとらえられなければならない。そのように考えてみると、「社会」ということばは、多数の日本人の日常語の中では、なじみのうすい、意味の乏しいことばなのだ、と言わざるを得ない。

このことは、明治維新以降、短期間のうちに、異質な文明のことばを大量に受け入れたとき、それまでの日常語とは切り離されたところに翻訳語、外来語の層を造り出したということなのである。そして、学術思想用語の多くをこの翻訳語に負っているため、いわば考えるときのことばと、生活のことばが分離してしまったのである。

しかし見方を変えると、まさにこのことが異質な文明の大量のことばを、しかも短期間に受け入れ消化することを可能にしたのである。

考えてみると、私たちの「翻訳語」とは、ずいぶん［X］なことばである。その翻訳語自体の意味は、よく考えてみると乏しいことが多い。しかし、それ自体に意味が乏しいからこそ、どんな異質な原語にも対応できる。その対置された原語のもつ意味

© RECRUIT HOLDINGS

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

が、意味とされるのである。たとえば society を「社会」と置きかえる。「社会」ということばは、もともと society の翻訳用に造られたことばである。「社」や「会」は漢字であり、漢字の熟語としても「社会」ということばはないわけではない。しかし、今日の日本語における「社会」は、漢字の意味の表現による第二の層のことばではない。「社会」という文字を見て、「社」や「会」の文字の意味から「社会」の意味を考えても無駄である。「社会」の意味は、もっぱら society にかかっている。「社会」は、society とまったく意味が一致することばである、とふつうには考えられている。

しかし、[B]それは、日本人の一大発明であった。明治の初め、圧倒的に優越したヨーロッパ文明に直面したとき、私たちの先人たちは、先進文明のことばをヨーロッパ語の形そのままで呑みこんでしまわずに、何とか日本語の形に変えて受けとめようとした。ことばの変革の歴史としては、非常に短い間に試みられ、そして明治十年代には、今日のような翻訳の形、つまりここで言う第三の層のことば造りは、ほぼできあがっていった。このことば造りは、当時の日本語が、もともと異国語の素姓の第二の層のことばを、母国語である第一の層のことばに混在させていた、という歴史的事情の支えをかりていた。一口に言えば、和漢混交文という形の利用ないし応用である。私たちの翻訳語は、ここで言う第二の層のことばを利用し、しかも変質させ、もう一つの別のことばの層を造りだしていったのである。

問１　傍線Ａの部分の「方法」の対象は、なぜ「家庭内のお年寄り」であることが必要なのか。その理由として最も適当なものを次から選び、答えよ。

①　家庭内のお年寄りはよく考えてから話をするため、考えるときのことば、つまり思考のことばを判断するのに適当であるから。

②　意味の乏しいことばは若者には理解されにくいため、お年寄りの家庭内の経験によって判断してもらうことが必要であるから。

③　ことばの意味は孤立した一つのことばとして考えられるのではなく、そのことばが使われる文脈の中でとらえられなければならないことを家庭内のお年寄りはよく知っているから。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　家庭内のお年寄りによって理解されるのが日常生活語であるのに対し、理解されにくいのが学術・思想のことばであるから。

⑤　際立って異質な日本語であるかどうかは、昔ことばを熟知しているお年寄りの知恵によって、はじめて明らかになることだから。

問２　空欄 X にはどんな語が入るか。次の片仮名の語の中から最も適当なものを選び、正確な漢字で書け。

ケッコウ　　キミョウ　　ナンカイ　　コウド　　ケイハク

問３　傍線部Bの「一大発明」の内容として最も適当なものを、次から選び、答えよ。

①　「社」と「会」という文字を使って「社会」という新しいことばを造りだしたように、考えるための意味の乏しいことばを大量に造りだしたこと。

②　外国語を音をかえずにそのまま片仮名表記の語にすることによって、大量の異文化の言語を容易に自分のことばとして取り入れたこと。

③　既成のことばを利用しつつ、意味の異なる新しいことばを造りだすことによって、非常に短期間に異文化の大量のことばを受け入れたこと。

④　漢字から平仮名・片仮名を造りだしたように、翻訳語・外来語においても、異質な文明のことばを巧妙に変質させることによって、新しい日本語を発達させたこと。

⑤　大和ことばとしての第一の層、中国渡来の第二の層に加えて、外来語としての第三の層を二千年の歴史の中で区別し使い分ける方法を発見したこと。

問４　福沢諭吉（一八三四～一九〇一）は、自分の翻訳法について次のように述べている。問題文で述べられている第一の層から第三の層にいたる翻訳語の歴史的事実と比較すると、福沢の翻訳に対する考え方は重要な点で異なっている。その福沢の判

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

断を端的に表す文はどこか。最も適当な一文を福沢の文中より抜き出し、その最初と最後の三文字を書け。

友人が書中の一原字を指点し、「時に此字を何と訳して稳(おだやか)ならん。あてはめると云ふ字であるが、さて訳語には困る。君は是れまで毎度訳したることもあらんが、こんな字に出逢うたときは何とするや。」との相談に、余は大に笑ひ、「君は今訳語に困ると口に言ひながら其口は既に適当なる語を吐て原字を訳出したるに非ずや。あてはめるとは誠に穏なる日本語にして申分なき訳字なり。僕なれば直に此日本語を以て原字を訳する積りなり。全体君等が西洋の原書を翻訳するに四角張った文字ばかり用ふるは何の為めなるや。」

問５　問題文に取り上げられている時代は、日本語にとって大きな変革の時代であった。この時代背景の説明として最も適当な文を次から選べ。

①　政治とともに文化の大きな転換期であった明治維新を境に、日本語は大きく変化した。翻訳口語が氾濫し、話しことばと書きことばが分裂の方向に進み、さらに江戸語から東京語への推移の中で、方言の地位が次第に確立していった。

②　外国との交流によって翻訳語・外来語の移入を盛んにし、演説の流行によって話しことばと書きことばが接近した。人々はとくに宗教・学問・技術などの専門語として翻訳語・外来語を用いるようになる。それはやがて言文一致運動のもととなった。

③　異質な文明の流入によって学問・思想など新しい分野のことばには専門語として翻訳語・外来語が用いられる一方で、庶民の間では伝統的な和語が多用された。このことは思考のことばと生活のことばが分離したままインテリと庶民とは異なることばのまま今日に至ったことと無縁ではない。

④　ことばの変革の歴史としては、伝統的な大和ことばに中国語からの借用である漢語を混在させ、格段に造語力のある和漢混交文を造りだしたことが、日本語の新鮮なエネルギーとなった。それによって近代日本語は、新しい側面を迎えた。

⑤　西洋文化の流入に当たっては漢語が大きな比重を占めることになった。それが従来の語に新しい意味を加えたり、語感をかえたりした場合のあったことも見逃せないが、これ以後、次第に定着した翻訳語はやがて一般の漢語と紛れ、現在ではほとんど区別がつかなくなった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講　知識モノ解説

文学史

●柳父　章（やなぶ　あきら　一九二八年〜）今回の筆者・翻訳語研究者『翻訳文化を考える』

語句

体系＝たいけい→ある秩序や基準によるまとまり・システム

逆説＝ぎゃくせつ→表面的、一般的理解とは反対のところに真理や真実がある・パラドックス

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二十三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）心理的なテイコウなしに受け止める　①挺　②抵　③低　④体　⑤底

（イ）アットウ的に優越した力　①踏　②到　③倒　④等　⑤討

（ウ）西欧語のゲンゴに対応したことば　①源　②原　③元　④現　⑤厳

（エ）スジョウの知れない人物　①姓　②情　③場　④状　⑤常

（オ）和漢コンコウ文で書かれた表現　①公　②考　③稿　④交　⑤講

（カ）ことばのヘンカクの歴史をたどる　①覚　②画　③核　④革　⑤角

（キ）明治イシン以降の時代　①緯　②威　③偉　④移　⑤維

（ク）日本語の三つのタイケイを区別する　①体　②帯　③隊　④大　⑤耐

（ケ）これは中国トライのことばである　①都　②途　③徒　④渡　⑤登

（コ）考えてもムダなものもある　①堕　②唾　③駄　④妥　⑤蛇

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講　日本語論・翻訳語論

《本文の対比構造》

主役
日本語の第三の層＝ヨーロッパ語の翻訳語＝学術思想用語・考えるときのことば／日本人の一大発明

主な対比

生活のことば／福沢諭吉の翻訳
和漢混交文

比較相手その1
日本語の第一の層＝伝統的な大和ことば

比較相手その2
日本語の第二の層＝中国渡来のことば・漢語

小さな対比

比較相手その3
ヨーロッパ語の形そのまま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

日常語と学術思想用語との対比です。「家庭内のお年寄り」は日常生活語の代表として登場しています。いわば日常語チェック用のリトマス試験紙です。青くなるとアルカリ……やめましょう。ともあれ④が正解です。①は「考えるときのことば」にしていいまいました。絵にかいたような対比混乱の誤りです。②は「若者⟷お年寄り」というヘンな対比を導入しています。これは典型的な正しい対比喪失の誤りです。③はどうか。「ことばの意味〜文脈〜こと」は筆者の本質的な言語論です。その内容を「家庭内のお年寄り」が知っているわけはありません。日常生活代表としての役割に反します。つまり、記述に反する誤りです。また筆者の論は言語論として学術的なものですから、対比混乱の誤りと呼んでもよいです。⑤は「昔ことば⟷今ことば・流行語？」であるかのようです。もちろん正しい対比喪失の誤りです。

問２《内容理解と語句知識の空欄補充・選択肢》

翻訳語は、日常生活の目線から見れば、「意味が乏しいことば」ですが、「見方を変えると」つまりヨーロッパ語の受容という点からみれば対応力のあることばだということです。つまりプラスとマイナスの同居したキミョウさを持つということです。逆説的とも言えます。

問３《傍線部説明・選択肢》

翻訳語のプラス面・ポジティブ面を「一大発明」と表現しています。①は「意味の乏しいことば」が×です。これでは生活目線ですね。対比混乱の誤りです。②は「そのまま」がマズイ。これは「比較相手その３」ですよ。これも対比混乱の誤りです。この問題の出題校である早稲田の政経も「文章を対比で読め！ 設問を対比で解け！」といっているわけです。④は「漢字から平仮名・片仮名」が本文中の「第二の層のことば」の説明と食い違います。記述に反する誤りです。また後半「異質な文明のことばを巧妙に変質」が×です。これではあたかもアルファベットを変形させたかのようです。そうではなく漢語の応用です。記述に反する誤りです。⑤は、「二千年の歴史」が×です。「一大発明」は明治時代の話ですからね。また「区別し使

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

い分ける方法を発見した」もひどい×です。発見は翻訳方法のはず。いずれも記述に反する誤りです。したがって③が正解です。

問４《内容理解・抜き出し》

福沢諭吉の翻訳法は、本文とは対比的ということです。本文では漢語を利用しつつ変容させて、日常生活用語とは切り離されたところ学術思想用語としての翻訳語が成立したと語られています。福沢は、それを「四角張った文字」と揶揄（からかう・皮肉を言う）しています。むしろ「穏なる日本語」を「串分なき訳字なり」と断定しています。ここを採用します。

問５《内容理解・選択肢》

もちろん明治維新前後の日本史の知識とは無関係に、本文の理解にもとづいて解答できる設問です。①②は「話しことば↔書きことば」が正しい対比喪失の誤りです。日記や手紙などは書きことばですが、日常生活をつづりますしね。さらに「東京語↔方言」という対比も×です。④は「新鮮なエネルギー」として「和漢混交文」を挙げてしまいました。時代錯誤も甚だしい！　それは千年以上もまえです。ともあれ第三層の話をするべきなのに第二層の話になってしまいました。対比混乱の誤りです。⑤は「区別がつかなくなった」が「三つの層」「それぞれの体系を〜はっきりと守っている」という記述に反する誤りです。

模範解答

問１＝④　問２＝奇妙　問３＝③　問４＝あては〜なり。　問５＝③

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二十三講

（ア）②　（イ）③　（ウ）②　（エ）①　（オ）④
（カ）④　（キ）⑤　（ク）①　（ケ）④　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）抵抗　（イ）圧倒　（ウ）原語　（エ）素姓（素性）　（オ）混交（混淆）
（カ）変革　（キ）維新　（ク）体系　（ケ）渡来　（コ）無駄

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。